

広島県経済の動向

令和元年6月3日

商工労働局

目 次

I	経済動向の概要	1
1	国内経済の動向	
2	広島県経済の動向	
II	県内主要製造業の生産動向	3
1	鉄鋼	
2	自動車	
3	造船	
4	一般機械	
5	電気機械	
III	中小企業の動向	5
1	概況	
IV	企業倒産状況	7
1	概況	
2	業種別	
3	原因別	
4	今後の見通し	
V	最近の雇用失業情勢	8
1	県内の有効求人・求職の動向	
2	県内の新規求人・求職の動向	
3	県内の人員整理の状況	
4	完全失業率の状況	
5	名目賃金、実質賃金の推移【事業所規模5人以上】	
6	名目賃金、実質賃金の推移【事業所規模30人以上】	

I 経済動向の概要

1 国内経済の動向

(1) 概要

指 標	H31年		R元年
	3月	4月	5月
基調判断	景気は、このところ輸出や生産の一部に弱さもみられるが、緩やかに回復している。		景気は、輸出や生産の弱さが続いているものの、緩やかに回復している。
輸 出	このところ弱含んでいる。		弱含んでいる。
生 産	一部に弱さがみられ、おおむね横ばいとなっている。		このところ弱含んでいる。
設 備 投 資	増加している。		このところ機械投資に弱さもみられるが、緩やかな増加傾向にある。
雇 用 情 勢	着実に改善している		
個 人 消 費	持ち直している		
住 宅 建 設	おおむね横ばいとなっている		
企 業 収 益	高い水準にあるものの、改善に足踏みがみられる。		

(2) 先行き

先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響に一層注意するとともに、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和元年5月24日公表）】

2 広島県経済の動向

(1) 概要

指 標	H31年		R元年
	3月	4月	5月
基調判断	緩やかに拡大している		
輸 出	基調としては緩やかに増加している		
生 産	緩やかに増加している		
設 備 投 資	足もと弱めの動きがみられるが、高水準で推移している。		
雇 用 情 勢	着実な改善を続けている		
個 人 消 費	持ち直している		
住 宅 投 資	持ち直しの動きがみられる		

(2) 県内の経済の状況

需要項目別に概観すると、公共投資は復旧・復興需要がみられる中で増加している。輸出は基調としては緩やかに増加している。設備投資は足もと弱めの動きがみられるが、高水準で推移している。個人消費は持ち直している。住宅投資は持ち直しの動きが見られる。

生産は緩やかに増加している。雇用・所得環境は着実な改善を続けている。消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%台半ばとなっている。

先行きの景気は、緩やかな拡大基調を続けるものとみられる。なお、公共投資を中心とした復旧・復興需要による景気全体の押し上げが継続するとみられる一方、消費税率の引き上げの影響や米国の保護主義的な通商政策、中国を始めとする新興国・資源国経済の動向は、下振れリスクとして注視する必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」（令和元年6月3日公表）】

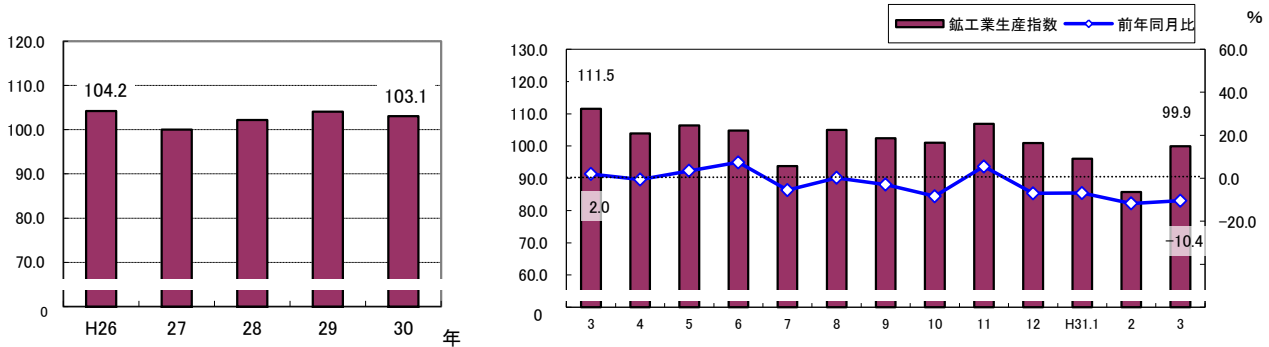
II 県内主要製造業の生産動向

1 鉄鋼（平成31年3月）

3月の鉄工業生産指数（鉄鋼業，原指数，速報値，平成27年＝100）は99.9で，前年同月比で10.4%低下となっている。

鉄工業生産指数(鉄鋼業)(年別・月別・前年同月比)

【県統計課】



○最近の景況

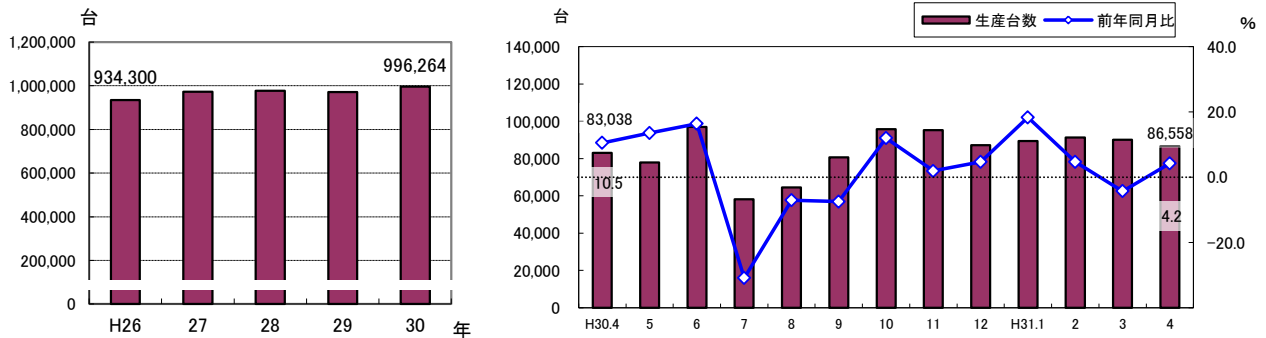
横ばい圏内の動きとなっている。

2 自動車（平成31年4月）

4月の国内生産台数は86,558台で，前年同月比で4.2%増加となっている。

自動車生産台数(年別・月別・前年同月比)

【マツダ(株)】



○最近の景況

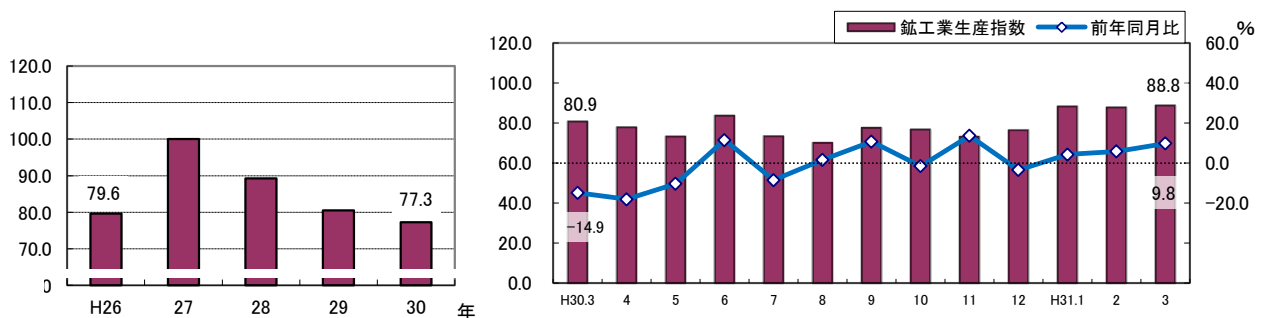
緩やかに増加している。

3 造船（平成31年3月）

3月の鉄工業生産指数（造船部門，原指数，速報値，平成27年＝100）は88.8で，前年同月比で9.8%上昇となっている。

鉄工業生産指数(造船部門)(年別・月別・前年同月比)

【県統計課】



○最近の景況

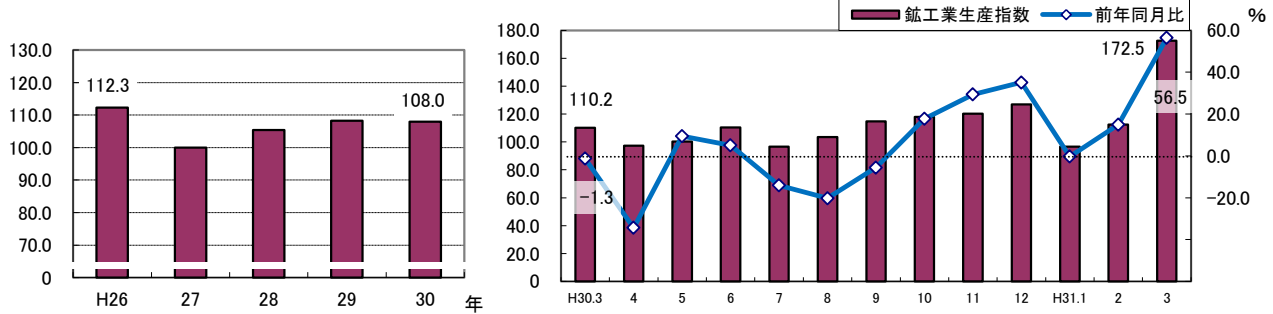
一部に弱めの動きがみられるものの，総じて高操業となっている。

4 一般機械（平成31年3月）

3月の鉱工業生産指数（一般機械工業，原指数，速報値，平成27年＝100）は172.5で，前年同月比で56.5%上昇となっている。

鉱工業生産指数（一般機械）（年別，月別・前年同月比）

【県統計課】



○最近の景況

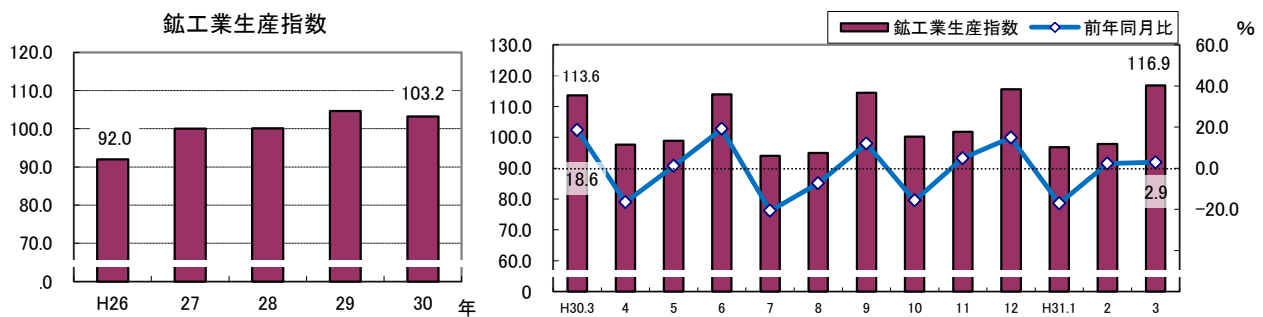
緩やかに増加している。

5 電気機械（平成31年3月）

3月の鉱工業生産指数（電気機械工業（総合），原指数，速報値，平成27年＝100）は116.9で，前年同月比で2.9%上昇となっている。

鉱工業生産指数（電気機械工業（総合））（年別，月別・前年同月比）

【県統計課】



○最近の景況

横ばい圏内の動きとなっている。

※ 「最近の景況」は，令和元年6月3日公表の日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」より転記。

Ⅲ 中小企業の動向（平成31年4月）

【広島県中小企業団体中央会】

1 概況

自動車関連業種では、国内自動車販売台数が前年同月比3.4%増加と2ヶ月振りの前年超えとなったが、マツダ車は19.1%減少と2ヶ月連続の前年割れとなった。また、マツダ車の海外販売合計台数は前年同月比9.1%減少と7ヶ月連続の前年割れとなった。

木材業界では、全国住宅着工数は前年同月比10.0%増加と4ヶ月連続の前年超えとなったが、広島県内の住宅着工数は前年比15.3%減少と2ヶ月振りの前年割れとなった。

ライフスタイルの変化により物の選択基準が多様化しており、消費税率引き上げ前の駆け込み需要が期待出来ない。

引き続き様々な業種において人手不足の声が聞こえる。中には工期の延期や新たな仕事を受けきれない事態が発生している業種もある。

景況 天気 図	業種	3月の景況感	4月の景況感	業種	3月の景況感	4月の景況感
	食料品			一般機械器具		
	繊維・衣服			電気機械器具		
	木材			自動車部品		
	家具			造船		
	印刷			建設		
	化学			トラック輸送		
	プラスチック製品			内航海運		
	土石製品			卸売		
	鉄鋼(铸件)			小売		
	金属製品			情報サービス		



(1) 景況感の変化

景況感	業種数		
	3月	4月	増減
好況	1	1	0
やや好況	1	0	▲ 1
普通	5	7	▲ 2
やや悪い	12	11	▲ 1
悪い	1	1	0

(2) 前月（3月）から変化のあった主な業種

業種	3月の景況感	4月の景況感	変化の理由・状況
食料品	やや悪い	普通↑	<p>4月の出荷量は前月比20.9%増加、前年同月比9.2%増加となり、売上高は前月比20.5%増加、前年同月比6.2%増加となった。</p> <p>【中国醤油醸造協同組合】</p> <p>人手不足が続く中、大手や条件の良い先へ就職を希望するため、良い人材が採れない。</p> <p>【広島県東部菓子商工業協同組合】</p>
トラック輸送	やや悪い	普通↑	<p>今年のGWは、製造業などが10連休とする会社が多く、その影響で4月下旬より荷動きが全体的に悪く、売上高は前月比、前年同月比ともに減少した。また、売上高に比例して収益状況も悪化した。収益状況悪化の原因は、軽油価格の高止まりである。</p> <p>働き方改革関連法が4月から施行され、年次有給休暇の取得義務化が本年4月から適用となり、自動車運転の時間外上限規制は2024年4月1日から始まる。ドライバー不足の現況から見ると今後も厳しい状況が続くことが予想される。</p> <p>【松永地区トラック事業協同組合】</p> <p>例年4月は、3月の繁忙期の変動で出荷が減少する月であるが、今年はGWが10連休と長期となったため、出荷が前倒しされ、慢性的な車輛不足もあり多忙であった。</p> <p>運送業界では人手不足を背景に、4月からの働き方改革関連法の施行も相まって、運転者の労働時間の短縮と運送効率化に取り組んでいる。</p> <p>人材確保に向けた収益確保のために、更なる適正価格での運賃、作業料金の収受が必要である。</p> <p>【広島輸送ターミナル協同組合】</p> <p>4月の荷動きは、年度初めでもあり前半の荷動きは鈍く、中旬以降に動きがあり売上高、収益状況は前月比減少、前年同月比不変であった。</p> <p>【協同組合尾道地区総合トラックセンター】</p>
化学	普通	やや悪い↓	<p>今年4月の第四4半期（1月～3月）は引き続き多忙であったが、米中貿易戦争による中国経済停滞の影響が少しずつではあるが表れており、繁忙感が若干薄れつつある。それに伴い求人も中止している。</p> <p>10月からの消費税率引き上げによる駆け込み需要もあまり期待出来ない。原材料価格もOPECの減産を受け、価格が再び上昇しつつあることを懸念している。消費税率引き上げ後の景気後退がどのように影響してくるのか、不透明感が強まっている。</p> <p>【中国ゴム工業協同組合】</p>
プラスチック製品	やや好況	普通↓	<p>自動車関連の売上は、順調に推移している。全体的に、売上は現状維持で推移している。</p> <p>【広島県プラスチック工業会】</p>

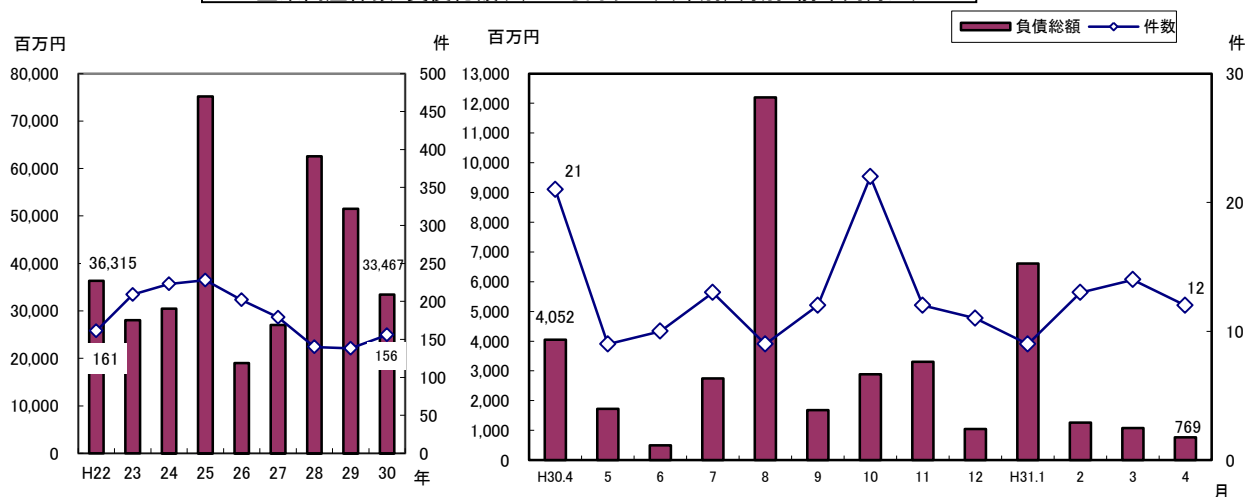
IV 企業倒産状況（平成31年4月）

1 概況

4月の県内企業の倒産状況（負債総額1,000万円以上）は、件数が12件、負債総額が7億6,900万円です。前月と比較すると件数は2件減少、負債総額は3億1,200万円減少しました。前年同月と比較すると、件数は9件減少、負債総額は32億8,300万円減少しました。大型倒産（負債総額10億円以上）は発生しなかった。

区分	平成31年2月	平成31年3月	平成31年4月
件数 (前年同月比)	13件 (+ 6件)	14件 (▲ 9件)	12件 (▲ 9件)
負債総額 (前年同月比)	1,263百万円 (+ 326.7%)	1,081百万円 (▲ 58.9%)	769百万円 (▲ 81.0%)

企業倒産件数・負債総額(1,000万円以上)(年別・月別・前年同月比)



2 業種別

件数は、卸・小売・飲食業が5件、サービス業が3件、建設業が2件、製造業、その他が各1件となった。

負債総額では、製造業、卸・小売・飲食業、サービス業、建設業、その他の順となった。

3 原因別

原因別では、販売不振が10件、過小資本、その他が各1件であった。

4 今後の見通し

県内経済を牽引するマツダは「平成30年7月豪雨」発生以降、7月、8月、9月と3ヵ月連続前年の生産台数を割り込んでいたが、その後は高操業の状態ですべて平成31年3月期の国内生産台数は前年を上回った。5月9日に発表した2020年3月期の国内生産台数も2.3%増を計画しており県内の製造業も堅調にしていることが窺える。また、日銀広島支店が6月に発表した金融経済月報に於いても広島県の景気は緩やかに拡大しているとされた。このような中で金融機関や行政の資金繰り支援策などの下支えもあり、平成31年4月度の倒産件数に於いても前年同月を下回っており、引き続き倒産は抑制された状態にある。

「令和」に改元され新しい時代がスタートしたが、広島県の平成31年4月の有効求人倍率は2.14倍で前月比0.01ポイントアップして12ヵ月連続で2倍を上回っており、採用が困難な状況が続いている。さらに平成31年4月1日には働き方改革関連法の順次適用が開始され、働く環境に対する取り組みの強化が求められている。また、米国大統領の言動から米中関係が悪化する可能性も考えられ、その影響からゴールデンウィーク明けの日経平均株価は続落しており、今後の状況次第では国内、県内経済にも影響が広がることも予測される。前述の通り、企業を取り巻く環境は厳しさを増して先行きは楽観できず、今後、倒産件数が増加していくことも考えられることから引き続き動向には注視が必要である。

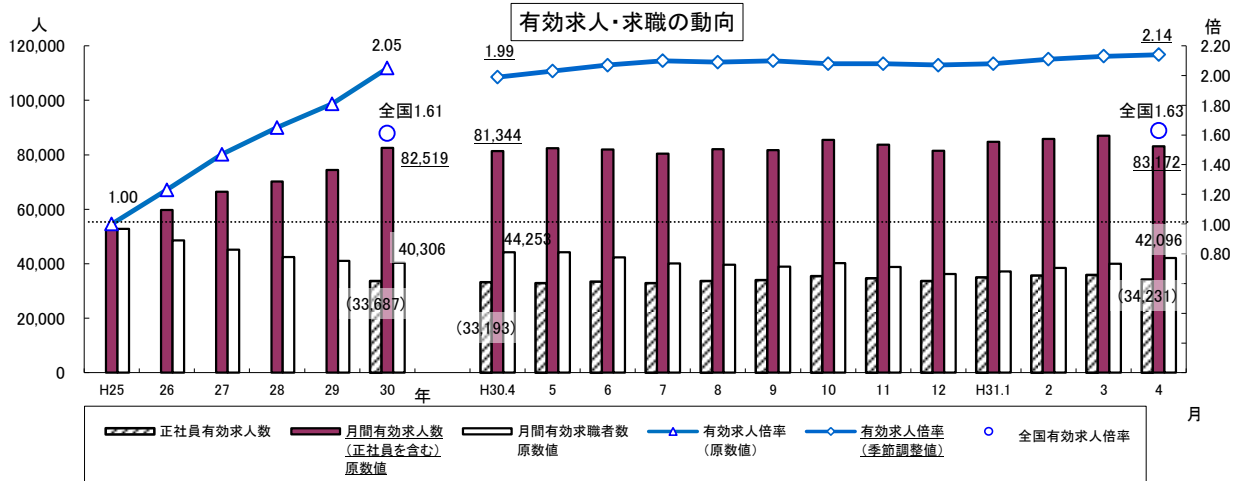
【(株)東京商工リサーチ】

V 最近の雇用失業情勢（平成31年4月）

1 県内の有効求人・求職の動向

区 分	平成31年2月	平成31年3月	平成31年4月
有効求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	2.11倍 (+ 0.03ポイント)	2.13倍 (+ 0.02ポイント)	2.14倍 (+ 0.01ポイント)
正社員有効求人倍率 (前年同月比)	1.47倍 (+ 0.09ポイント)	1.43倍 (+ 0.11ポイント)	1.33倍 (+ 0.10ポイント)

【広島労働局】

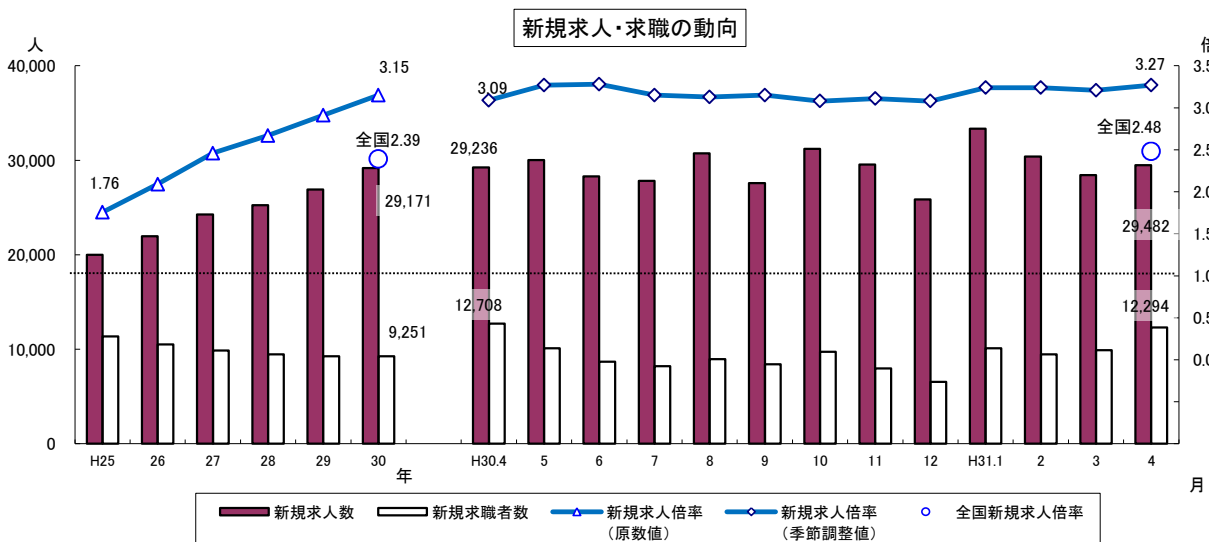


- (注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人数をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。
 (注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。
 (注3) 平成30年12月以前の季節調整値は改訂されている。（平成31年1月分公表時改訂）

2 県内の新規求人・求職の動向

区 分	平成31年2月	平成31年3月	平成31年4月
新規求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	3.24倍 (±0.00ポイント)	3.21倍 (-0.03ポイント)	3.27倍 (+0.06ポイント)

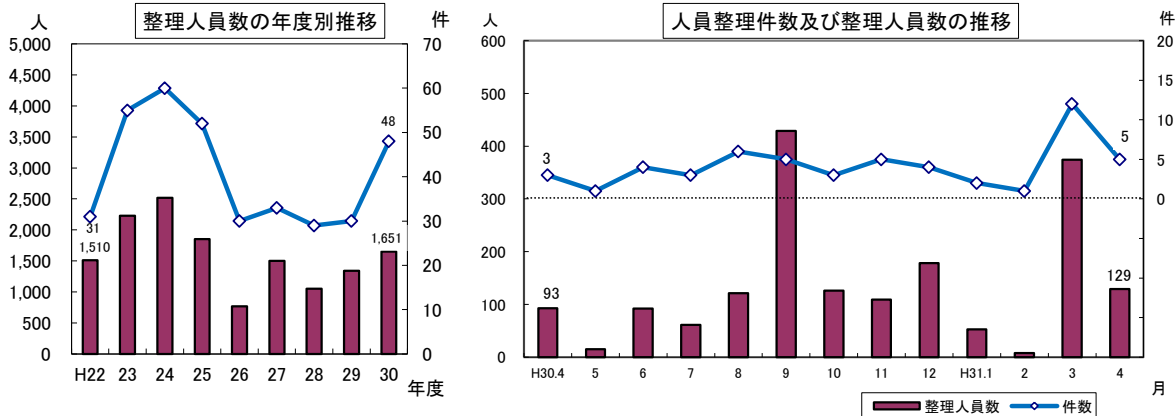
【広島労働局】



3 県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区 分	平成31年 2月	平成31年 3月	平成31年 4月
件数 (前年同月比)	1件 (± 0件)	12件 (+ 11件)	5件 (+ 2件)
整理人員 (前年同月比)	8人 (▲ 23人)	374人 (+ 340人)	129人 (+ 36人)

【広島労働局】

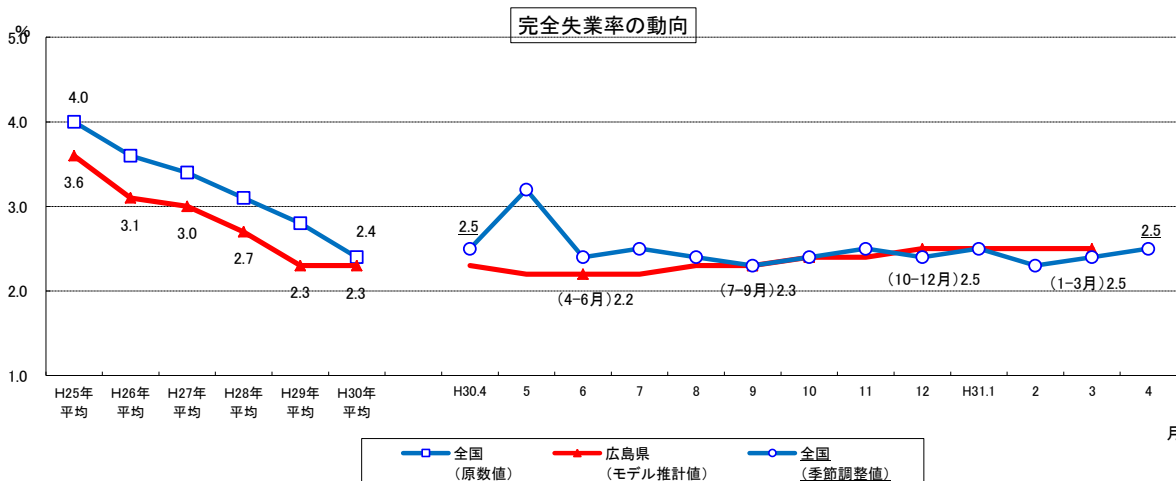


4 完全失業率の状況

区 分	平成31年 2月	平成31年 3月	平成31年 4月
全国完全失業者数 (前年同月比)	156万人 (▲ 10万人)	174万人 (+ 1万人)	176万人 (▲ 4万人)
全国完全失業率 (季節調整値) (前月比)	2.3% (▲ 0.2%)	2.5% (+ 0.2%)	2.4% (▲ 0.1%)

区 分	平成30年		平成31年
	7～9月期平均	10～12月期平均	1～3月期平均
広島県完全失業率 (モデル推計値) (前期比)	2.3% (+ 0.1%)	2.5% (+ 0.2%)	2.5% (+ 0.0%)

【総務省統計局】

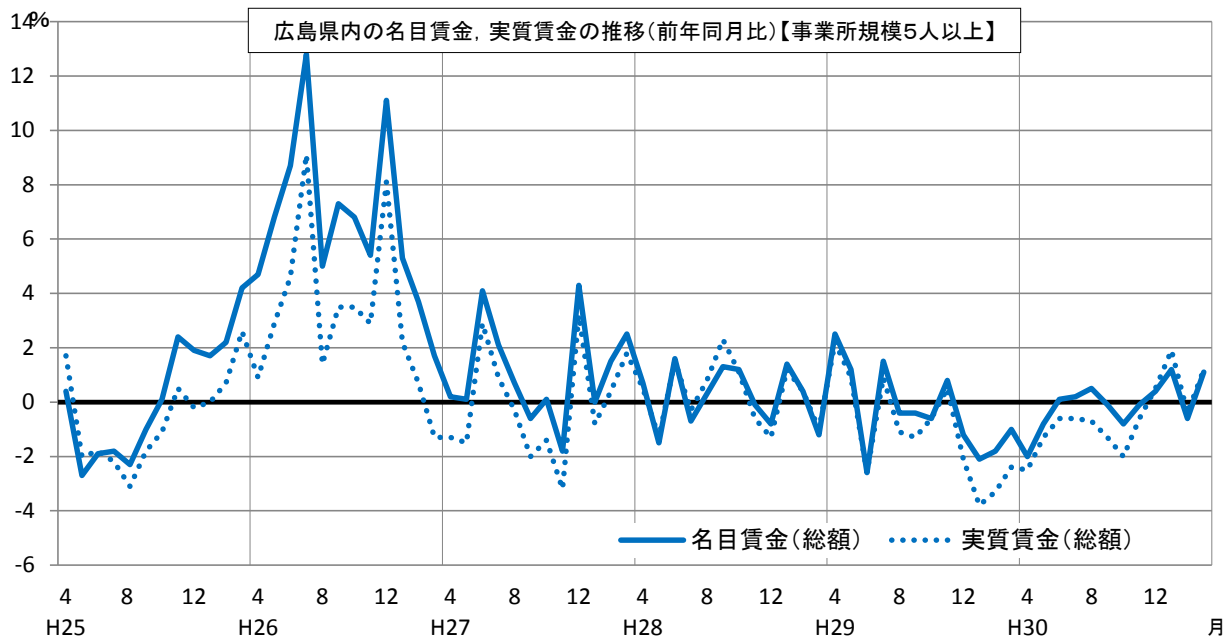


※ 広島県（モデル推計値）は、毎年1～3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去にさかのぼって一部改定している。

5 名目賃金, 実質賃金の推移 (前年同月比) 【事業所規模5人以上】

区 分	平成31年1月	平成31年2月	平成31年3月
名目賃金	1.2%	▲ 0.6%	1.1%
実質賃金	1.9%	▲ 0.4%	1.2%

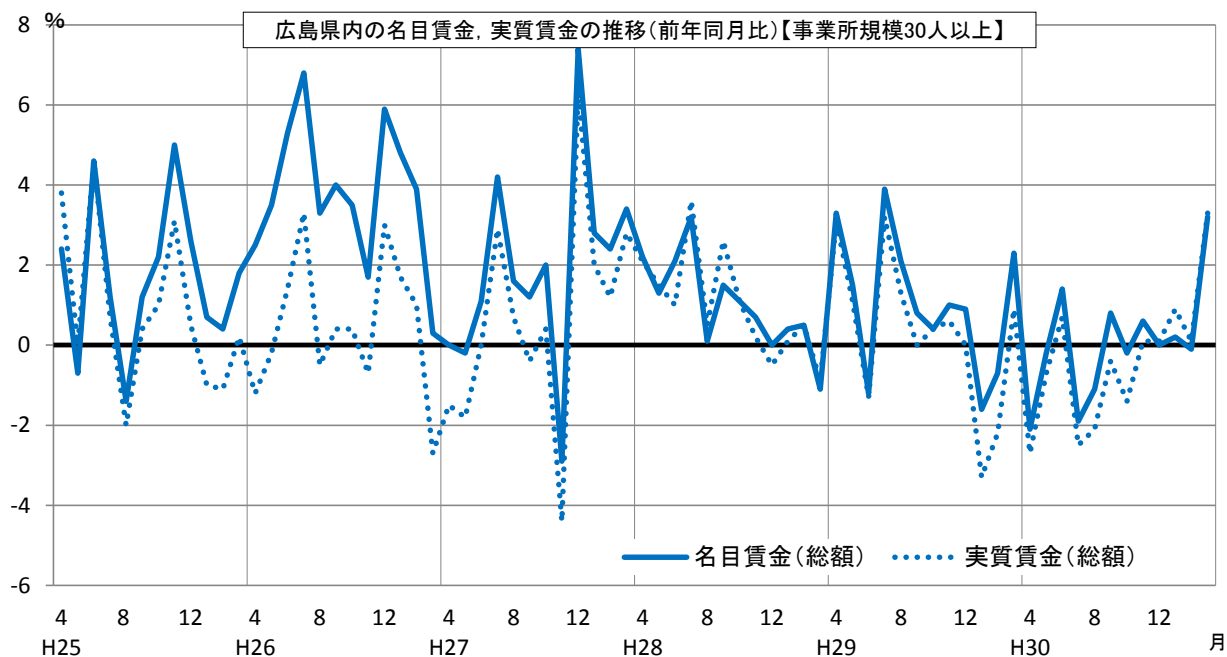
【県統計課】



6 名目賃金, 実質賃金の推移 (前年同月比) 【事業所規模30人以上】

区 分	平成31年1月	平成31年2月	平成31年3月
名目賃金	0.2%	▲ 0.1%	3.2%
実質賃金	0.9%	0.1%	3.3%

【県統計課】



※ 毎月勤労統計調査から作成。

※ 毎月勤労統計調査の各月の指数を前年同月比で比較して作成。

実質賃金指数は、名目賃金指数を広島市消費者物価指数で除して算出している。